

日本鐵鋼協會第十二回講演大會及第十九回通常總會順序

第一日 四月三日（祭日、火曜日）午前九時開會

場 所 東京市麹町區丸ノ内三丁目四番地 帝國鐵道協會々館（二階三階講堂）

（省線有樂町驛、市電、東京驛終點、市役所前、日比谷、數寄屋橋、下車）

講 演 會（午前之部）

（講演多數に付き（5）以外を二部に分つ）

時 間	第一部會場 (鐵道協會々館二階大講堂)	第二部會場 (鐵道協會々館三階大講堂)
	開會之辭	開會之辭
時 分 9:20- 9:45	1) 弧光式電氣爐鋼中の窒素並にカーバイドスラッグの脱酸性に就て 吳海軍工廠製鋼部 工學士 早矢仕 功君	3) 特殊鋼材の疲労破壊並に衝撃破壊に於ける「切込み」の影響に就て 日本特殊鋼會社 技師 玉置 正一君
9:50-10:15	2) 白銅鑄鐵の脱炭に就て（第2報） 戸畠鑄物會社冶金研究所 理學士 内藤 逸策君	4) クロムモリブデン鋼の成分と質量效果に就て 砲兵大佐 工學士 尾藤加勢士君 陸軍科學研究所 陸軍技師 工學博士 石田 四郎君

（會 場 二階大講堂） 午前 10:25-10:50 5) 平爐作業能率増進の一考察
八幡製鐵所技師 工學士 吉川 平喜君

日本鐵鋼協會第十九回通常總會

會 場 東京市麹町區丸ノ内三丁目四番地 帝國鐵道協會會館（二階大講堂）

日 時 昭和九年四月三日（祭日、火曜日）午前十一時開會

開會之辭 社團法人日本鐵鋼協會會長 工學博士 河村 驍君

議 事

- イ、昭和八年度會務報告
- ロ、昭和八年度收支決算報告
- ハ、昭和九年度收支豫算報告
- ニ、任期満了會長、理事、評議員（半數）、改選（投票、開票）
- ホ、日本鐵鋼協會定款改正の件（決議事項）

服部賞牌並に服部賞金贈呈式

（總會終了）

晝 食 （鐵道協會食堂に於て）

講 演 會 (午後之部)

時 間	第一部會場 (鐵道協會々館二階大講堂)		第二部會場 (鐵道協會々館三階大講堂)	
	講演題目	講師名	講演題目	講師名
午後 時 分 1.00- 1.25	6) 木炭銑の性質に就て 戸畠鑄物會社若松工場 工學士 宮下格之助君		14) ハーネマン金屬研究所製マルテンサイト活動寫眞の紹介 旅順工科大學助教授 工學士 大日方一司君	
1.30- 1.55	7) 鎔鑄爐にて低炭素銑製造考察 八幡製鐵所技師 工學士 谷口 光平君		15) 継続な冷却速度を與へる二三の燒入液に就て 旅順工科大學助教授 工學士 大日方一司君 高瀬 孝夫君	

10 分休憩

2.05- 2.30	8) 純銅砂型鑄物の研究 芝浦製作所研究所 中村 素君 澤井 寛一君		16) 二三のコバルト合金に就て 東京高等工藝學校教授 橋本 宇一君
2.35- 3.00	9) 各種ペーライト鑄鐵の機械的性質と其の耐 磨耗性 神戸製鋼所技師 理學士 三浦 三索君		17) 鑄造用輕合金に對するバナデウムの影響 三菱航空機會社名古屋製作所技師 理學士 岡田 俊一君

10 分休憩

3.10- 3.35	10) 線付鋼塊に於ける氣泡の壓着性 八幡製鐵所技師 工學士 小平 勇君		18) 鐵-ニッケル-アルミニウム系平衡狀態圖 東北帝國大學助教授 工學博士 武田 修三君 工學士 八卷 信郎君
3.40- 4.05	11) 電弧式電氣爐自動電極調整裝置 芝浦製作所 黒河内 敏君		19) 微量のマグネシウムがアルミニウム亞鉛系 の共析變態に及ぼす影響に就て 九州帝國大學教授 工學博士 今井 弘君

10 分休憩

4.15- 4.40	12) 酸性平爐に依るニッケル合金鋼の精鍊 日本ニッケル情報局技師 ドクトル、オブ、サイエンス 藤原 唯義君		20) 鑄鐵、アルムコ鐵及鋼が水中に於ける初期 點蝕現象と不働狀態との關係に就て 南滿洲鐵道株式會社中央研究所 日下 和治君
4.45- 5.10	13) 鑄鐵の生長に就て 戸畠鑄物會社技師 理學博士 菊田多利男君		21) 壓延鋼材の燒鈍效果に及ぼす炭素並に満倅 の影響 八幡製鐵所技師 工學士 城 正俊君

晚 饗 會 午後六時開會

會 場 帝國鐵道協會 食堂 (會費金貳圓五十錢也)

第二日 四月四日 水曜日 工 場 見 學

第一班

1、海軍技術研究所 午前九時一午前十一時

目黒區三田拾三番地 (省線 惠比須驛 下車)

晝 食 隨 意

2、鐵道省大宮工場 午後一時三十分一午後二時三十分

埼玉縣大宮町大宮驛下車

解 散

第二班 橫須賀方面

午前九時 省線 橫須賀驛前 集合 (集合所より航行する故時間厳守)

見學個所 午前 追濱海軍航空隊

晝 食 (場所 航空隊内にて)

午後 戰艦、潛水艦、橫須賀海軍工廠

注意 晴雨に拘らず見學のこと

解 散